

ボートショー 開催推移

	【1962年（昭和37年）】	【1963年（昭和38年）】
	第1回東京ボートショー	第2回東京ボートショー
会 期	1962年4月17日（火）～19日（木）	1963年3月7日（木）～13日（水）
開催場所	東京都体育館	東京都体育館
入場者数	15,000人	25,000人
出展会社数	29社	37社
出展物数	モーターボート36隻／ヨット3隻	モーターボート40隻／ヨット4隻／エンジン60基
概 要	日本舟艇振興会の名で開催された第1回東京ボートショーは、日本における初めての本格的規模のボートショーと話題になった。高度成長政策、貿易の自由化が軌道に乗り始めた年である。入場料は30円。銭湯の入浴料19円、EP盤レコード290円の時代である。	前年「太平洋ひとりぼっち」で名を馳せた堀江謙一氏がテープカットを行った。小型ヨットによる快挙は日本中の若者たちに海と船への憧れを抱かせ、ボートショーへの期待もまた高まった。

	【1964年（昭和39年）】	【1965年（昭和40年）】
	第3回東京ボートショー	第4回東京ボートショー
会 期	1964年3月20日（金）～26日（木）	1965年3月11日（木）～14日（日）
開催場所	晴海国際見本市会場（東京国際貿易センター）南館	晴海国際見本市会場 西館
入場者数	20,000人	35,000人
出展会社数	38社	25社
出展物数	モーターボート45隻／ヨット3隻	モーターボート40隻／ヨット5隻
概 要	三笠宮殿下を名誉総裁にお迎えし、運輸省の後援を受ける。東京オリンピック開催のため東京都体育館が借りられず、会場を晴海国際見本市会場へ移す。天井の低い南館での開催となったために、高いマストのあるヨットの展示にはひと苦労した。	会場が晴海国際見本市会場の西館で天井が高くなり、展示は楽になったものの、出展社数が減ったことで全館を使いこなせず、紅白の幔幕で半分仕切って使わなければならなかった。

第1回東京ボートショー



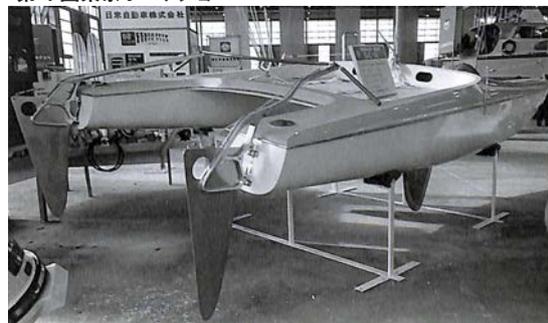
第2回東京ボートショー



第3回東京ボートショー



第4回東京ボートショー



	【1966年（昭和41年）】	【1967年【昭和42年）】
	第5回東京ボートショー	第6回東京ボートショー
会 期	1966年3月5日（土）～8日（火）	1967年3月25日（土）～28日（火）
開催場所	東京都体育館	晴海国際見本市会場 南館
入場者数	30,000人	40,000人
出展会社数	30社	32社
出展物数	モーターボート35隻／ヨット7隻	モーターボート40隻／ヨット8隻
概 要	会場は東京都体育館に戻る。外国公館から「政府としての申し込みを受け付けるか」という問い合わせもあり、ボートショーは次第に国際色を帯びるようになってきた。	ショー会場としての適性から、再び晴海国際見本市会場南館での開催となる。まだ珍しかったウォータージェット推進艇が、ポンプユニットだけのものも含め、4社から展示された。そのうち2社が国産技術なのは頼もしいと評判になった。

	【1968年（昭和43年）】	【1969年（昭和44年）】
	第7回東京ボートショー	第8回東京ボートショー
会 期	1968年3月29日（金）～4月1日（月）	1969年3月27日（木）～30日（日）
開催場所	晴海国際見本市会場 南館	晴海国際見本市会場 1号館
入場者数	42,000人	50,000人
出展会社数	39社	47社
出展物数	モーターボート52隻／ヨット18隻	モーターボート47隻／ヨット13隻
概 要	アルミ製のディンギーなどヨットの展示が目立ち始めた。のちに、『舵』前主幹・土肥勝由氏は、「入場者の質、量ともに、ようやく上昇の傾向を示したことが察知された」と、当会会報に記している。	この年の新聞世論調査によると、大衆レクリエーションの志向として、プレジャーボートが第一に挙げられている。ショーの出展者数も伸び、会場は西館を全館使用。入場者数は5万人を超えた。

第5回東京ボートショー



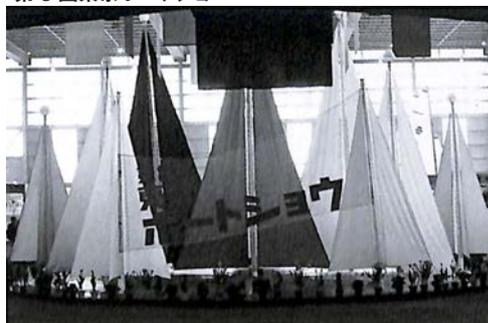
第6回東京ボートショー



第7回東京ボートショー



第8回東京ボートショー



	【1970年（昭和45年）】	【1971年（昭和46年）】
	第9回東京ボートショー	第10回東京ボートショー
会 期	1970年3月27日（金）～30日（月）	1971年3月26日（金）～30日（火）
開 催 場 所	晴海国際見本市会場 1号館	晴海国際見本市会場 西館
入 場 者 数	70,000人	72,000人
出 展 会 社 数	70社	77社・450小間
出 展 物 数	モーターボート130隻／ヨット35隻	モーターボート152隻／ヨット56隻／その他の舟艇53隻／エンジン156基
概 要	「国産艇の品質が向上し、輸入艇に比べてなんら遜色のない美しい仕上がりのものが多くなった」と専門誌の記事。居住性の高いボートが増え、釣りやアクアラング愛好者にまで販路を広げようというメーカーの意欲が注目された。	第10回から社団法人日本舟艇工業会の主催となる。日本舟艇振興会からこのボートショー事業をそのまま継承し、海洋レクリエーション「太陽と海の祭典」第10回東京ボートショーと銘打って開催した。

	【1972年（昭和47年）】	【1973年（昭和48年）】
	第11回東京ボートショー	第12回東京ボートショー
会 期	1972年3月16日（木）～20日（月）	1973年3月21日（水）～25日（日）
開 催 場 所	晴海国際見本市会場 東館、西館	晴海国際見本市会場 東館、西館、南館、1号館
入 場 者 数	100,000人	110,000人
出 展 会 社 数	91社・588小間	111社・711小間
出 展 物 数	モーターボート170隻／ヨット64隻／その他の舟艇33隻／エンジン190基	モーターボート167隻／ヨット78隻／その他の舟艇60隻／エンジン237基
概 要	出展社数の急激な増加により、今までのように、見本市会場のひとつの建物だけでは収容しきれなくなり、2館の使用となった。10回から募集されるようになったコンパニオンの報酬は1日6千円だった。	晴海国際見本市会場の4館を〈風のパビリオン〉〈波のパビリオン〉〈雲のパビリオン〉〈光のパビリオン〉と名づけ、大々的に開催。明治からの水着の歴史をつづるファッションショーやディキシーランドジャズの演奏など、にぎやかなフェスティバルだった。

第9回東京ボートショー



第10回東京ボートショー



第11回東京ボートショー



第12回東京ボートショー



	【1974年（昭和49年）】	【1975年（昭和50年）】
	第13回東京ボートショー	第14回東京国際ボートショー
会 期	中止	1975年4月3日（木）～7日（月）
開 催 場 所		晴海国際見本市会場 東館、西館
入 場 者 数		65,000人
出 展 会 社 数		75社・456小間
出 展 物 数		モーターボート80隻／ヨット57隻／その他の舟艇50隻／エンジン218基
概 要	第12回ボートショーと同様の規模となる予定であったが、世界を揺るがせた石油ショックによる社会経済情勢の悪化と、国の需要抑制政策の決定を見るに至ったことから、ついに中止のやむなきに至った。	名称を「東京国際ボートショー」変更。名誉総裁に三笠宮寛仁親王殿下をお迎えした。経済成長率がマイナスになるなどの社会情勢の余波を受け、ボートショーにとっても災厄の時期だった。入場者の中から抽選で、〈シナラ〉のクルージングに招待した。

	【1976年（昭和51年）】	【1977年（昭和52年）】
	第15回東京国際ボートショー	第16回東京国際ボートショー
会 期	1976年4月1日（木）～5日（月）	1977年3月31日（木）～4月4日（月）
開 催 場 所	晴海国際見本市会場 東館、西館	晴海国際見本市会場 東館、西館
入 場 者 数	47,000人	55,000人
出 展 会 社 数	59社・342小間	55社・329小間
出 展 物 数	モーターボート61隻／ヨット48隻／その他の舟艇16隻／エンジン194基	モーターボート61隻／ヨット38隻／その他の舟艇13隻／エンジン133基
概 要	太平洋シングルハンドレース優勝艇を展示。不況が続いていたが、比較的低価格のモデルは会場で多数の予約が取れるなど、人々の海への志向は決して衰えていなかった。世界的なボート界の著名人が来場し、国際的な雰囲気を盛り上げていた。	実用性を全面に打ち出したボートが増える。「規模は縮小したが、ショーとしては足が地についた感じ」という声も聞かれた。ヨットファンやモーターボートファンのほかに、熱心に質問する釣りファンの姿が目立った。

第13回東京ボートショー



第14回東京ボートショー



第15回東京ボートショー



第16回東京ボートショー



	【1978年(昭和53年)】	【1979年(昭和54年)】
	第17回東京国際ボートショー	第18回東京国際ボートショー
会 期	1978年3月17日(金)～21日(日)	1979年3月23日(金)～27日(火)
開催場所	晴海国際見本市会場 東館、西館	晴海国際見本市会場 東館、西館
入場者数	59,000人	58,000人
出展会社数	58社・299小間	52社・328小間
出展物数	モーターボート52隻/ヨット38隻/その他の舟艇20隻/エンジン185基	モーターボート62隻/ヨット38隻/その他の舟艇25隻/エンジン162基
概 要	「海はともだち」というテーマのもとに開催。このころ、マリンスポーツの安全性という問題がクローズアップされており、参加各社もそれぞれ安全コーナーを設け、その向上に努めていた。	フィッシングボートが伸びた時代。テレビ番組「11PM」の服部名人こと服部善郎さんをゲストに迎えた釣り自慢大会などもあった。台風並みの低気圧が通過して関係者をハラハラさせた一幕も……。

	【1980年(昭和55年)】	【1981年(昭和56年)】
	第19回東京国際ボートショー	第20回東京国際ボートショー
会 期	1980年3月19日(水)～23日(日)	1981年3月25日(水)～29日(日)
開催場所	晴海国際見本市会場 東館、西館	晴海国際見本市会場 東館、西館
入場者数	58,000人	77,056人
出展会社数	59社 399小間	58社 415.5小間
出展物数	モーターボート66隻/ヨット51隻/その他の舟艇21隻/エンジン173基	モーターボート64隻/ヨット48隻/エンジン181基
概 要	第12回熱海オーシャンカップ優勝艇の〈ベニハナ〉が特別展示された。暖かく穏やかな日があるかと思えば、雪の降る寒い日もあったりと、日によって入場者数にも波があった。	省エネルギー対策による低燃費のディーゼル船内外機や、それを搭載したフィッシング艇、またディンギーの展示が目立った。映画に使われた戦艦〈大和〉の1/20スケール模型が展示され、人気を博した。

第17回東京ボートショー



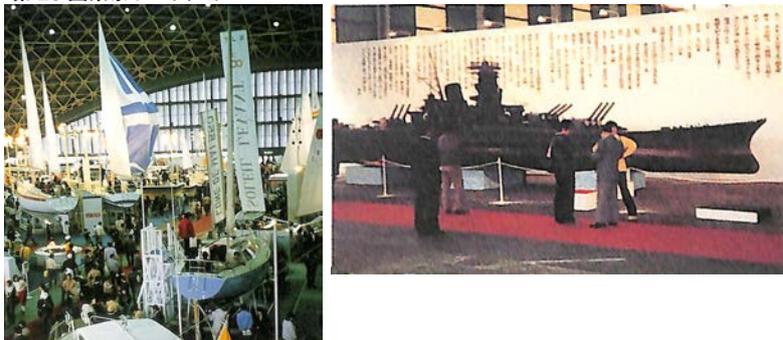
第18回東京ボートショー



第19回東京ボートショー



第20回東京ボートショー



	【1982年(昭和57年)】	
	第21回東京国際ボートショー	第1回神戸国際ボートショー
会 期	1982年3月24日(水)～28日(日)	1982年4月1日(木)～5日(月)
開 催 場 所	晴海国際見本市会場 東館、西館	ポートアイランド国際展示場 1・2F、正面広場
入 場 者 数	68,725人	43,158人
出 展 会 社 数	66社・403小間	45社・屋内181.5小間、屋外51小間
出 展 物 数	モーターボート62隻／ヨット41隻／エンジン187基	モーターボート38隻／ヨット34隻／エンジン152基
概 要	関西地区で初めて国際ボートショーを開催した。東京では、月島警察署の指導により会場へのマイカー乗り入れを禁止する。各社がフィッシングボートおよび小型ディーゼルエンジンの新型を一斉に公表した。4～5人乗りホバークラフトが初めて出展される。	

	【1983年(昭和58年)】	
	第22回東京国際ボートショー	第2回神戸国際ボートショー
会 期	1983年3月23日(水)～27日(日)	1983年3月31日(木)～4月3日(日)
開 催 場 所	晴海国際見本市会場 東館、西館	ポートアイランド国際展示場 1・2F、正面広場
入 場 者 数	75,015人	41,485人
出 展 会 社 数	71社・467小間	46社・屋内194小間、屋外71小間
出 展 物 数	モーターボート89隻／ヨット44隻／エンジン174基	モーターボート50隻／ヨット23隻／エンジン157基
概 要	多目的モーターボート、運搬や保管に便利な小型ボート、ヨットの出展が目立ったほか、マリンファッションの新規出展が増加した。オークションの売上げを朝日新聞厚生事業団に寄付した。	

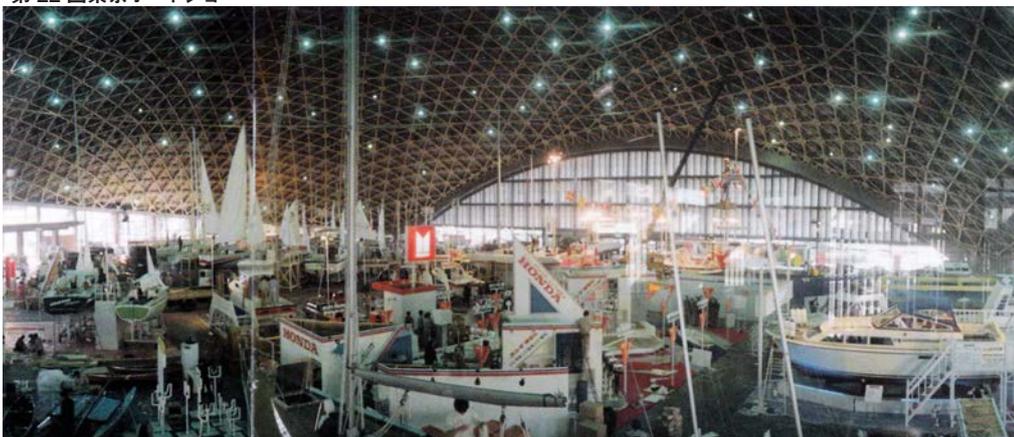
第21回東京ボートショー



第1回神戸ボートショー



第22回東京ボートショー



	【1984年(昭和59年)】	
	第23回東京国際ボートショー	第3回神戸国際ボートショー
会 期	1984年3月1日(金)～5日(月)	1984年3月9日(木)～12日(月)
開催場所	晴海国際見本市会場 東館、西館	ポートアイランド国際展示場 1・2F、正面広場
入場者数	75,015人	37,701人
出展会社数	81社・504小間	45社・屋内187.5小間、屋外73小間
出展物数	モーターボート76隻／ヨット46隻／エンジン192基	モーターボート55隻／ヨット22隻／エンジン125基
概 要	大型の輸入モーターボート、ヨットの出展が多くなり、国産船外機の大型化傾向が見られたほか、フィッシングタイプのモーターボートを豪華にマイナーチェンジしたモデルの出展も目立った。「小型船舶の安全国際会議」に出席したカナダなど5カ国の代表者が、東京ボートショーを見学。第1回BOCシングルハンド世界一周レース「アラウンド・アローン」の優勝艇〈オケラ5世〉が展示された。	

	【1985年(昭和60年)】	
	第24回東京国際ボートショー	第4回神戸国際ボートショー
会 期	1985年3月1日(金)～5日(火)	1985年3月9日(土)～12日(火)
開催場所	晴海国際見本市会場 東館、西館	ポートアイランド国際展示場 1・2F、正面広場
入場者数	71,892人	35,378人
出展会社数	80社・534小間	31社・屋内177小間、屋外60小間
出展物数	モーターボート82隻／ヨット46隻／エンジン195基	モーターボート51隻／ヨット20隻／エンジン150基
概 要	モーターボート、ヨットとも大型艇の出展が増加。フィッシングタイプのボートを各社出展。セイリングボードメーカー23社が出展した。輸入の豪華モーターボート、ヨットが目立ち、新製品として小型水中翼船、小型潜水艇が展示された。前年12月にパーソナル無線が許可になり、多数のパーソナル無線機が展示された。	

第23回東京ボートショー



第24回東京ボートショー



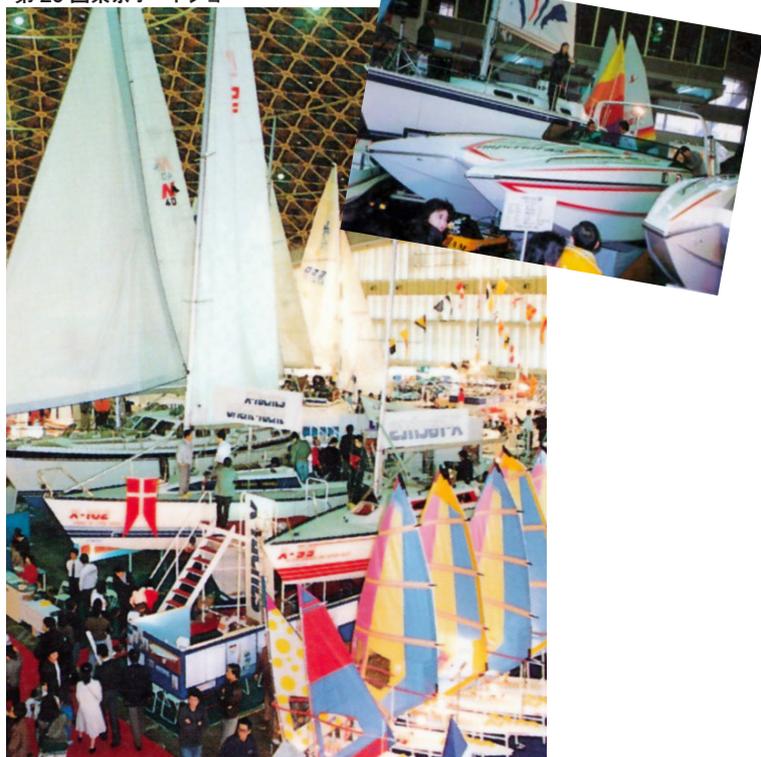
	【1986年(昭和61年)】	
	第25回東京国際ボートショー	第1回大阪国際ボートショー
会 期	1986年2月28日(金)～3月4日(火)	1986年5月22日(木)～25日(日)
開 催 場 所	晴海国際見本市会場 東館、西館	日本万国博覧会記念公園(お祭り広場)
入 場 者 数	86,191人	公園のためカウントできず
出 展 会 社 数	89社・555.1小間	39社・279小間(1小間19.4m ²)
出 展 物 数	モーターボート108隻/ヨット37隻/エンジン181基	モーターボート67隻/ヨット22隻/エンジン103基
概 要	名称を「マリンフェスティバル」と改め、アメリカ、フランス、ノルウェー、イギリス、台湾などの豪華輸入艇を中心とした海外製品の展示が増え、国際的な催しとなった。イベントは1日館長として長嶋茂雄氏を迎え、また世界一周航海を果たしたヨット(垂乳根)を特別展示した。団体の協賛による海難事故防止キャンペーンポスターを会場の随所に掲示し、安全啓発のPRを実施した。	

	【1987年(昭和62年)】	
	第26回東京国際ボートショー	第2回大阪国際ボートショー
会 期	1987年2月11日(水)～15日(日)	1987年2月20日(金)～23日(月)
開 催 場 所	晴海国際見本市会場 東館、西館、B館、館前広場	インテックス大阪2号館
入 場 者 数	95,015人	36,194人
出 展 会 社 数	108社・屋内750小間、屋外775小間	23社・262小間
出 展 物 数	モーターボート174隻/ヨット44隻/エンジン182基	モーターボート68隻/ヨット15隻/エンジン128基
概 要	モーターボート、ヨットとも大型艇の出展が増加。B館の催事場ではセイリングボード界のトップスター、ジェリー・ロベスによるスクールや、収益金を海難遺児救済の一助にあてるマリングッズオークションなどが開催され、来場者に喜んでもらえる展示構成となった。大阪では初めてインテックス大阪での開催とした。	

第25回東京ボートショー



第26回東京ボートショー



	【1988年(昭和63年)】	
	第27回東京国際ボートショー	第3回大阪国際ボートショー
会 期	1988年2月10日(水)～14日(日)	1988年2月19日(金)～22日(月)
開 催 場 所	晴国際見本市会場 東館、西館、B館、C館、館前広場	インテックス大阪 1号館、2号館
入 場 者 数	107,948人	39,914人
出 展 会 社 数	142社・屋内1,052小間、屋外126小間	38社・334.5小間
出 展 物 数	モーターボート238隻／ヨット54隻／エンジン221基	モーターボート75隻／ヨット17隻／エンジン121基
概 要	出展会社で31.5%、小間数で52%と大幅に前年比が増加。また来場者も10万人の大会に乗った。出展会社は、大手商社をはじめとして新規輸入会社が増加。大型輸入モーターボートの大幅な増加に伴い、陸揚げ等の問題が発生し、東京都港湾局との折衝が続いた。大阪も出展会社が65%も増加し、急ぎよ1館を追加して、2館を会場にした。	

	【1989年(平成1年)】	
	第28回東京国際ボートショー	第4回大阪国際ボートショー
会 期	1989年2月8日(水)～12日(日)	1989年2月17日(金)～20日(月)
開 催 場 所	晴海国際見本市会場 東館、西館、B館、C館、駐車場、館前広場	インテックス大阪 1号館、2号館
入 場 者 数	130,883人	52,247人
出 展 会 社 数	165社・屋内1,167小間、屋外303小間	49社・416小間
出 展 物 数	モーターボート249隻／ヨット63隻／エンジン189基	モーターボート78隻／ヨット17隻／エンジン100基
概 要	出展申し込みが前年より増加し、収容不能になったため、10小間以上の大口屋内出展社の小間数を、出展回数により10～50%の範囲で削減した。昭和天皇の崩御により「マリンフェスティバル」を「マリンワールド」に名称変更するとともに、装飾を華美にならないように注意した。アメリカズカップ・ニッポンチャレンジ艇を借用し、ショーの目玉とした。これは報道関係者の反響を呼び、取材が多かった。	

第27回東京ボートショー



第28回東京ボートショー



イベントスケジュール	
	28水 9木 10金 11土 12日
11:00	ヨットスクール スクール
12:00	ヨットスクール スクール
13:00	マリンドッグスオーケストラ
14:00	ヨットスクール スクール
15:00	ヨットスクール スクール
16:00	マリンドッグスオーケストラ
17:00	

	【1990年(平成2年)】	
	第29回東京国際ボートショー	第5回大阪国際ボートショー
会 期	1990年2月11日(日)～15日(木)	1990年2月22日(木)～25日(日)
開催場所	晴海国際見本市会場 東館、西館、新館(1F・2F)、A館、B館、C館、屋外展示場(館前50m道路、南駐車場)	インテックス大阪2号館、3号館、6号館
入場者数	151,472人	63,179人
出展会社数	192社・屋内1,840小間、屋外374小間、その他海事団体9団体	62社・715小間、その他海事団体3団体
出展物数	モーターボート431隻／ヨット89隻／エンジン139基	モーターボート171隻／ヨット12隻／エンジン70基
概 要	東京会場は、晴海国際見本市会場の南館を除く全館で開催。入場券のもぎりは南北ゲートの2カ所に配置し、各館への出入りは自由とした。各国からの直接出展社がイギリス、オーストラリア、カナダ、アメリカ、オランダ、フィンランドの6カ国となったほか、新規輸入会社の出展が大幅に増加し、出展艇の80%以上が輸入艇となった。特にアメリカ、イタリアからの大出力レーシングボートが目立った。水上オートバイの種類が多様化し、マリレジャーの一つの傾向を示していた。	

	【1991年(平成3年)】	
	第30回東京国際ボートショー	第6回大阪国際ボートショー
会 期	1991年2月9日(土)～14日(木)	1991年2月21日(木)～24日(日)
開催場所	晴海国際見本市会場 東館、西館、新館(1F・2F)、南館(1F・2F)、A館、B館、C館、屋外展示場(館前50m道路、南駐車場)	インテックス大阪1号館、2号館、3号館、6号館、7号館(インテックス大阪設立5周年記念催し物会場として使用)
入場者数	155,075人	64,322人
出展会社数	217社・2,484.5小間(屋内192社・1,888.5小間、屋外39社・596小間)、その他海事団体12団体	68社・934.5小間、その他海事団体7団体
出展物数	モーターボート427隻／ヨット88隻／エンジン155基	モーターボート173隻／ヨット15隻／エンジン96基
概 要	東京国際ボートショー30回を記念してシンボルマークの一般公募を実施、878点の応募があった。晴海国際見本市会場全館と屋外の50m道路、南駐車場を使用しての開催となった。海外からも7カ国から出展され、一段と国際化してきたように思われた。出展物の傾向は、輸入の豪華大型艇が増加した。大型艇を展示した南駐車場の展示面積は前回の2倍の広さとなった。また、PWCの種類も多様化し、若者の注目を浴びた。大阪会場はインテックス大阪設立5周年記念の催事もあり、1館増加(1号館)しての開催となったが、全館混み合った小間割となった。	

第29回東京ボートショー



第30回東京ボートショー

月刊「KAZI」1991年4月号



	【1992年(平成4年)】	
	第31回東京国際ボートショー	第7回大阪国際ボートショー
会 期	1992年2月11日(火)～16日(日)	1992年2月21日(金)～24日(日)
開催場所	晴海国際見本市会場 東館、西館、新館(1F・2F)、南館(1F・2F)、A館、B館、C館、屋外展示場(館前50m道路)	インテックス大阪2号館、3号館、4号館、5号館
入場者数	116,480人	54,321人
出展会社数	185社・2,120小間(屋内171社・1,735小間、屋外21社・385小間)、その他海事団体12団体	72社・830小間、その他海事団体5団体
出展物数	モーターボート389隻/ヨット56隻/エンジン140基	モーターボート135隻/ヨット21隻/エンジン71基
概 要	バブル崩壊の影響が出始め、晴海国際見本市会場全体を使用した東京会場は、開催の2カ月前ごろから、キャンセルと小間削減が続出した。理由は、国内出展者の場合、倒産、輸入艇の納入が間に合わないなど、外国出展者の場合、予定の出展社が集まらなかったなどによる。また、大阪会場は1館減らしての開催となった。輸入大型艇の出展が減少した反面、釣りブームを反映したフィッシングボートやランナバウトなどの中・小型艇の出展が増加し、特にPWCが急増するなど、艇の多様化が見られた。この年より、海外からの来場者専用の休憩所を設け、非常に好評であった。	

	【1993年(平成5年)】	
	第32回東京国際ボートショー	第8回大阪国際ボートショー
会 期	1993年2月9日(火)～14日(日)	1993年2月19日(金)～22日(月)
開催場所	晴海国際見本市会場 東館、西館、南館(1F・2F)、B館、C館、屋外展示場(館前50m道路)	インテックス大阪1号館、2号館
入場者数	123,434人	51,754人
出展会社数	159社・1,449小間(屋内145社・1,235小間、屋外21社・214小間)、その他海事団体15団体	47社・393小間、その他海事団体6団体
出展物数	モーターボート214隻/ヨット44隻/PWC37隻	モーターボート59隻/ヨット7隻/PWC34隻
概 要	バブルの影響により、東京、大阪両会場ともに出展社数が減少した。特に、大型ボート輸入会社からの出展が急減し、東京会場では前回61艇だった40フィート以上のモーターボートが26艇となった。一方、外国からの直接出展が、アメリカ、イタリア、イギリス、オーストラリア、フランス、韓国、台湾、香港とEC委員会の6カ国、2地域、1団体からあった。また、ICOMIA、IFBSO並びに出版社IBIの関係者が、日本のボート市場に関心を寄せて会場を訪れた。出展物としては、ローボート、特にカヌーの出展が増加した。	

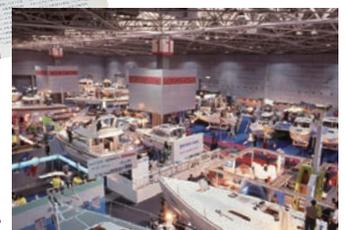
第31回東京ボートショー



第32回東京ボートショー



月刊「KAZI」1993年4月号



第8回大阪ボートショー

	【1994年(平成6年)】	
	第33回東京国際ボートショー	第9回大阪国際ボートショー
会 期	1994年2月8日(火)～13日(日)	1994年2月18日(金)～21日(月)
開 催 場 所	晴海国際見本市会場 東館、西館、B館、C館、屋外展示場(館前50m道路)	インテックス大阪1号館、2号館
入 場 者 数	112,058人	47,070人
出 展 会 社 数	138社・1,080小間(屋内119社・968小間、屋外19社・112小間)、その他海事団体15団体	46社・306小間、その他海事団体6団体
出 展 物 数	モーターボート244隻/ヨット40隻/PWC25隻	モーターボート85隻/ヨット4隻/PWC21隻
概 要	不況の風をもろに受け、東京、大阪両会場とも、出展会社(東京13.8%減)並びに小間数(東京25.5%減)が減少した。大型艇の出展が大幅減となったが、中・小型艇で300万～500万円のファミリー向けフィッシングボートや、ジェット推進のジェットボートが増加した。2月12日(土)の東京は25年ぶりの大雪となり、1日中交通麻痺状態であったが、出展社からは、「その日の来場者とは中身の濃い商談ができた」との話があった。外国からの出展は、東京がイギリス、アメリカ、韓国、台湾の3カ国と1地域、大阪は台湾からの1地域であった。	

	【1995年(平成7年)】	
	第34回東京国際ボートショー	第10回大阪国際ボートショー
会 期	1995年2月7日(火)～12日(日)	1995年3月18日(土)～21日(火)
開 催 場 所	晴海国際見本市会場 東館、西館、B館、C館、屋外展示場(館前50m道路)	インテックス大阪6号館(Bゾーン)
入 場 者 数	108,875人	34,548人
出 展 会 社 数	119社・923小間(屋内107社・849小間、屋外14社・74小間)、その他海事団体16団体	34社・270小間、その他海事団体3団体
出 展 物 数	モーターボート193隻/ヨット41隻/PWC17隻	モーターボート65隻/ヨット5隻/PWC15隻
概 要	この年の1月に阪神淡路大震災が発生した。大阪会場の一部が避難者の仮宿泊所となったこともあり、大阪は中止との意見が提案されたが、オープニングセレモニーをはじめ、全体を地味にして開催された。また、東京、大阪両会場のチャリティオークションの売り上げを含めて被災者に義援金を寄付し、感謝された。出展物では、ウォータージェット推進の小型ボートや、シットイングタイプのPWCの出展が大幅に増加した。エンジン関係では、4ストロークの大型船外機の展示が目立った。東京会場ではC館を入場無料の催事会場とし、即売コーナーを設けた。	

第33回東京ボートショー



第34回東京ボートショー



	【1996年(平成8年)】	
	第35回東京国際ボートショー	第11回大阪国際ボートショー
会 期	1996年2月7日(水)～12日(月)	1996年3月7日(木)～10日(日)
開催場所	晴海国際見本市会場 東館、西館、B館、C館、屋外展示場(館前50m道路)	インテックス大阪6号館(Bゾーン)
入場者数	129,999人	46,833人
出展会社数	121社・1,135小間(普通小間72社・821.5小間、特設会場37社・114小間、RVコーナー7社・59小間、中古艇コーナー5社・141小間)、その他海事団体14団体	43社・296.5小間(普通小間36社・286.5小間、特設小間7社・12小間)、その他海事団体6団体
出展物数	モーターボート178隻/ヨット24隻/PWC29隻	モーターボート65隻/ヨット5隻/PWC23隻
概 要	晴海国際見本市会場は取り壊しが決定し、晴海での最後の開催となった。この年、アウトドア用品取り扱い会社にも出展を呼びかけた結果、キャンピングカーのメーカーや輸入業者等7社から25台の展示があった。特設小間として3×3mのスペースを低額の小間料金で募集した結果、多くの申し込みを得た。東京会場では、アフター5の入場を期待して開場時間を午後7時までとしたが、期待したほど多くはなかった。ファミリー向けの「低価格ボート」の出展が多く、中でも、6mの船体に40馬力の船外機をセットした998,000円の輸入艇が注目を集めた。	

	【1997年(平成9年)】	
	第36回東京国際ボートショー	第12回大阪国際ボートショー
会 期	1997年2月7日(金)～11日(火)	1997年3月6日(木)～9日(日)
開催場所	東京国際展示場(東京ビッグサイト)東展示棟(東1ホール～東4ホール)	インテックス大阪6号館(Aゾーン、Bゾーン)
入場者数	172,532人	66,850人
出展会社数	179社・1,053小間(普通小間104社・858小間、特設小間48社・101小間、RVコーナー21社・44小間、中古艇コーナー6社・50小間)、その他海事団体12団体	60社・429小間(普通小間47社・405小間、特設小間7社・15小間、RVコーナー6社・9小間)、その他海事団体4社
出展物数	モーターボート172隻/ヨット37隻/PWC30隻	モーターボート96隻/ヨット4隻/PWC33隻
概 要	東京会場は、晴海国際見本市会場から東京ビッグサイトに移しての初開催であり、また、大阪会場も6号館全体を使っての開催となり、東京、大阪両会場とも過去最高の入場者数となった。東京は新会場効果があったこと、大阪はマスコミの取材が多く、震災の復旧が進んだことなどがその理由として考えられた。また、全般にプレジャーボートの大衆化が進んだことも挙げられた。東京会場では、大型ボート、クルーザーヨット、マリン機器類など、出展物の種類ごとにゾーニングし、小間割りした。東4ホールを入場無料の特設会場とし、即売やRVコーナー、催事用ステージを設けた。大阪会場では、神戸復興ボランティア団体へ使用済みカーペットを寄付し、感謝された。	

第35回東京国際ボートショー



第36回東京国際ボートショー



	【1998年(平成10年)】	
	第37回東京国際ボートショー	第13回大阪国際ボートショー
会 期	1998年2月11日(水)～15日(日)	1998年3月5日(木)～8日(日)
開 催 場 所	東京国際展示場(東京ビッグサイト)東展示棟(東1ホール～東4ホール)	インテックス大阪6号館(Aゾーン、Bゾーン)
入 場 者 数	160,629人	68,916人
出 展 会 社 数	171社・1,132小間(普通小間97社・908小間、特設小間59社・116小間、RVコーナー3社・18小間、中古艇コーナー12社・90小間)、その他海事団体15団体	62社・475小間(普通小間43社・442小間、特設小間17社・24小間、RVコーナー2社・9小間)、その他海事団体7団体
出 展 物 数	モーターボート231隻/ヨット27隻/PWC28隻	モーターボート102隻/ヨット4隻/PWC28隻
概 要	大阪会場は、阪神淡路大震災の復興に伴い、出展小間数並びに入場者数が過去最高となったものの、東京会場は、会期中に長野オリンピックが開催されていたことや、業界を取り巻く経済状況が低迷していたことなどもあって、総入場者数が前回より約1万人減少した。ただし、若者グループやファミリーの来場者が増加していることから、マリレクリエーションの普及と大衆化が確実に進んでいることが感じられた。東京会場では、ニッポンチャレンジ・アメリカ杯2000が記者会見を実施し、プレス関係者が多数出席した。出展物では、ボートトレーラーとパッケージボートが増加した。会場で小型船舶操縦士免許の講習会を実施し、好評であった。	

	【1999年(平成11年)】	
	第38回東京国際ボートショー	第14回大阪国際ボートショー
会 期	1999年2月10日(水)～14日(日)	1999年3月4日(木)～7日(日)
開 催 場 所	東京国際展示場(東京ビッグサイト)東展示棟(東1ホール～東3ホール)	インテックス大阪6号館(Aゾーン、Bゾーン)
入 場 者 数	152,199人	65,513人
出 展 会 社 数	135社・836小間(普通小間86社・711小間、特設小間35社・62小間、ヨットコーナー14社・53小間)、その他海事団体15団体	59社・435小間(普通小間43社・383小間、特設小間15社・22小間、中古艇コーナー1団体30小間)、その他海事団体7団体
出 展 物 数	モーターボート164隻/ヨット18隻/PWC24隻	モーターボート101隻/ヨット4隻/PWC21隻
概 要	東京会場は、出展が減少したこともあって、東1～3ホールを使用しての開催となった。ヨットの出展が少なくなってきたことを重視し、東京会場ではヨット関係の出展を一堂に集めた『ヨットコーナー』を設けた。また、このコーナーで「親子のヨット教室」を開催。ニッポンチャレンジのスキッパー、ピーター・ギルモア氏が子供たちにロープワーク等の指導を行い、感激している観客が多かった。大阪会場も出展が減り、6号館のA、B両ゾーンとも2/3を使用しての開催となった。環境負荷低減をうたった4ストロークと直噴の2ストローク船外機のエンジンの出展が増加した。	

第37回東京国際ボートショー



第38回東京国際ボートショー



	【2000年(平成12年)】	
	第39回東京国際ボートショー	第15回大阪国際ボートショー
会 期	2000年2月10日(木)～13日(日)	2000年3月3日(金)～5日(日)
開催場所	東京国際展示場(東京ビッグサイト)東展示棟(東1ホール～東3ホール)	インテックス大阪6号館(Aゾーン)
入場者数	140,128人	54,128人
出展会社数	151社・801.5小間(普通小間138社・727小間、ヨットコーナー15社・74.5小間)、その他海事団体15団体	50社・353小間(普通小間)、その他海事団体7団体
出展物数	モーターボート186隻/ヨット16隻/PWC18隻	モーターボート89隻/ヨット3隻/PWC11隻
概 要	出展募集段階から出展者の減少が予測されたことや、開催期間を東京、大阪両会場ともに1日短縮したこともあって、来場者確保のための告知活動に力を入れた。結果的に、東京会場はほぼ前年並みの出展規模となったが、大阪会場は出展者を確保できず、Aゾーンのみでの開催となった。また、1日あたりの来場者数では前年を上回ったものの、全体としては減少した。出展物も中・大型艇の出展が少なく、華やかさの点でやや寂しさを感じられたが、前年から実施している『ヨットコーナー』は出展物が増え、一応の成功をみた。運輸省 海上技術安全局 船用工業課が、ボートショー史上初めて独自のブースを設け、その活動ぶりをPRした。	

	【2001年(平成13年)】	
	第40回東京国際ボートショー	第16回大阪国際ボートショー
会 期	2001年2月9日(金)～12日(月・休日)	2001年3月3日(金)～5日(日)
開催場所	東京国際展示場(東京ビッグサイト)東展示棟(東1ホール～東3ホール)	インテックス大阪6号館(Aゾーン)
入場者数	122,488人	50,409人
出展会社数	普通小間126社・670.5小間、海事団体10団体・13.5小間、ヨットコーナー18社・55小間(出展総小間数721.5小間)	普通小間53社・323小間、海事団体5団体・6小間(出展総小間数329小間)
出展物数	モーターボート172隻/ヨット10隻/PWC22隻/エンジン87基	モーターボート71隻/PWC20隻/エンジン60基
概 要	東京会場の総入場者数は前年比12.6%減となった。前回中止したプレスアワーを復活させた結果、プレス関係者来場が約100名増加し344名となった。出展各社からの提供商品のオークションを実施、その売上金220,200円を三宅島噴火災害の義援金として東京都に寄付した。大阪会場の入場者数も前回より6.9%減少した。原因としては、会期中の天候が思わしくなかったことと、経済状況の低迷によるものと思われる。出展者から提供のあったディンギーヨットのオークションを実施し、その売上金162,000円を(社)日本水難救済会の『青い羽募金』に寄付した。	

第39回東京国際ボートショー



第40回東京国際ボートショー



	【2002年(平成14年)】	
	第41回東京国際ボートショー	第17回大阪国際ボートショー
会 期	2002年2月8日(金)～11日(月・祝日)	2002年3月1日(金)～3日(日)
開催場所	東京国際展示場(東京ビッグサイト)東展示棟(東1ホール～東3ホール)	インテックス大阪1号館、2号館
入場者数	116,912人	47,457人
出展会社数	142社・655.5小間(普通小間118社・611.5小間、海事団体9団体・13.5小間、ヨットコーナー17社・49小間)	55社・293小間(普通小間50社・286小間、海事団体5団体・7小間)
出展物数	モーターボート131隻/ヨット11隻/PWC28隻/エンジン64基	モーターボート90隻/PWC20隻/エンジン52基
概 要	東京会場は大型クルーザーボートの展示が少なく、輸入より国産ボートの割合が増加し、小型ボートの展示とインフレタブルボートの展示艇種が増えた。西展示棟で同時開催された「ダイビングフェスティバル2002」とタイアップし、相互の入場料金の割引を行い、来場者増に寄与した。大阪会場は、子供連れのファミリーと、ジェットボート、ウェイクボードに見入る若者の姿が目立った。4号館では「アウトドアフェスティバル2002」が併催され、相互の来場者相乗効果を狙い、それぞれの入場チケットの半券提示で入場料金の割引を行い、来場者増に寄与した。	

	【2003年(平成15年)】	
	第42回東京国際ボートショー	第18回大阪国際ボートショー
会 期	2003年2月8日(土)～11日(火・祝日)	2003年2月28日(金)～3月2日(日)
開催場所	東京国際展示場(東京ビッグサイト)東展示棟(東1ホール～東3ホール)	インテックス大阪1号館、2号館
入場者数	123,372人	48,287人
出展会社数	157社・589.25小間(普通小間111社・522小間、海事団体16団体・22.8小間、ヨット8社・40小間、輸入艇10社・30小間、特別小間・12小間)	61社・259小間(普通小間42社・238.25小間、海事団体14団体・19.5小間、特別小間5社・5小間)
出展物数	モーターボート127隻/ヨット11隻/PWC26隻/エンジン84基	モーターボート58隻/PWC20隻/エンジン57基
概 要	東京、大阪両会場とも、入場者数は前回より数%増となった。東京は「ダイビングフェスティバル2003」、大阪は「アウトドアフェスティバル2003」とタイアップして入場料金の割引を行い、来場者増に寄与した。また両会場とも、マイク真木氏のトークショー、ミスボートショーのイベントやオークションが人気となった。オークションの売上金は、東京は大島町に、大阪は『美しい湖国をつくる会』に贈った。東京会場はで、輸入艇コーナーの新設に伴い、輸入ボートの展示割合が高まった。	

第41回東京国際ボートショー



第42回東京国際ボートショー



	【2004年(平成16年)】	
	第43回東京国際ボートショー	第19回大阪国際ボートショー
会 期	2004年2月5日(木)～8日(日)	2004年3月5日(金)～7日(日)
開催場所	幕張メッセ(日本コンベンションセンター)ホール1～ホール3	インテックス大阪2号館
入場者数	41,823人	16,065人
出展会社数	149社・589.50小間(普通小間107社・511.5小間、海事団体14団体・36.5小間、ヨット8社・13小間、輸入艇7社・8小間、特別小間・10小間)	58社・226小間(普通小間36社・198.5小間、海事団体14団体・25.5小間、特別小間8社・8小間)
出展物数	モーターボート137隻/ヨット7隻/PWC23隻/エンジン75基	モーターボート42隻/PWC12隻/エンジン46基
概 要	この年から、東京会場を千葉県幕張メッセに変更した。東京会場は同時開催の「国際釣り博2004」と、大阪会場は「大阪アウトドアフェスティバル2004」との相乗効果を狙い、入場料金の割引を行ったが、両会場とも入場者数が前年に比べて大幅に減少した。東京会場では、石原伸晃・国土交通大臣のボートショー会場公式視察があった。大阪会場は、初日にNHK大阪によるボートショー会場風景の生中継があり、12分紹介された。両会場ともイベントは大変な人気であった。出展各社提供品のオークションの売上金を、「アテネオリンピックヨット選手強化合宿支援金」として(財)日本セーリング連盟に贈った。	

	【2005年(平成17年)】	
	第44回東京国際ボートショー	第20回大阪国際ボートショー
会 期	2005年2月10日(木)～13日(日)	2005年3月4日(金)～6日(日)
開催場所	幕張メッセ(日本コンベンションセンター)ホール1～ホール3	インテックス大阪2号館
入場者数	43,007人	13,778人
出展会社数	138社・914.39小間(普通小間107社、海事団体14団体、ヨット9社、輸入艇8社) ※普通小間は9m ² 、小型ユニットは4m ² 、ヨット/輸入艇コーナーは8m ² で換算	51社・353.5小間(普通小間35社・328小間、海事団体10団体・24小間、特別小間6社・6小間) ※普通小間は9m ² 、小型ユニットは4m ² で換算
出展物数	モーターボート120隻/ヨット6隻/PWC17隻/エンジン96基	モーターボート50隻/PWC5隻
概 要	東京会場の入場者は前年比102.8%となり増加したが、開催期間中の祝日数が前年の2日間から3日間になったことによるものと思われる。イベントコーナーでは、マリンレジャーの各分野で活躍する達人をそろえて来場者の何でも相談に答える「マリンコンシェルジュ」を新たに配置し、マリンファンに喜ばれた。大阪会場の入場者は前年比85.8%となったが、若者に人気のあるPWCの出展が大幅に少なくなったことが影響したと思われる。両会場のオークション売上金を「三宅島帰島支援金」として、東京都三宅島村に贈呈した。	

関西国際フローティングボートショー2005	
会 期	2005年5月20日(金)～22日(日)
開催場所	新西宮ヨットハーバー
入場者数	6,778人
出展会社数	76社(国土交通省、団体含む)
出展物数	モーターボート72隻(陸上展示、インフレーター等を含む)/ヨット(セーリングクルーザー)20隻/ディンギー6隻/PWC8隻/エンジン30基(船外機27、船内機3)
概 要	関西圏でのボートショーも20回を数える長い歴史の中で、関係者からは本格的なフローティング形式のボートショーの開催が強く望まれた。そこで、阪神淡路大震災10周年の記念事業として承認を受け、併せて、会場となる新西宮ヨットハーバーの開港10周年記念として開催した。

	【2006年(平成18年)】	
	2006 東京国際ボートショー (第45回)	関西国際フローティングボートショー 2006 (第2回)
会 期	2006年2月9日(木)～12日(日)	2006年4月14日(金)～16日(日)
開催場所	幕張メッセ(日本コンベンションセンター)ホール1～ホール3	新西宮ヨットハーバー
入場者数	37,048人	10,771人
出展会社数	182社・209出展(ボート40社、スモールボート10社、輸入ボート等20社、ヨット8社、PWC3社、マリンエンジン12社、マリン関連機器等97社、海事関連団体等19社)	73社
出展物数	モーターボート162隻/ヨット10隻/PWC21隻/エンジン86基	出展艇数95隻/エンジン6基
概 要	入場者数が前年比86.1%であった。同時開催された「RVショー」との共同の交通広告、割引入場券などで連携した。インターネットカフェを常設し、マリンセミナー、ボート免許更新講習会、オークション等のイベントは定番となった。	当会として初めて取り組んだ2005年のフローティングボートショーに続く第2回。出展社73社で、出展艇数95隻、エンジン6基及び関連用品、機器・計器などが展示され、全国初の規模で開催。フローティングショーならではの多彩なイベントを行った。

第43回東京国際ボートショー



第44回東京国際ボートショー



第45回東京国際ボートショー



	【2007年(平成19年)】	
	ジャパンインターナショナル ボートショー 2007 イン横浜 (第46回)	神戸国際ボートショー 2007 (第3回)
会 期	2007年3月15日(木)～18日(日)	2007年4月6日(金)～8日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 A～D全ホールと隣接フローティング会場、臨港パークとその周辺	神戸国際展示場、新西宮ヨットハーバー
入場者数	46,125人	13,391人
出展会社数	221社 ※屋外フローティングを除く	95社
出展物数	ボート145隻/ヨット27隻/PWC21隻/エンジン87基	125隻
概 要	イベント名称を、従来の東京国際ボートショーから、ジャパンインターナショナルボートショーに変更。従来の幕張メッセにおける屋内展示によるボートショー(東京国際ボートショー)をあらため、当会ボートショーとしては初めてとなる、フローティング展示と屋内展示とを併せ持つボートショーを、マリンの雰囲気があふれる横浜みなとみらい21地区で開催した。ファミリー層の親子参加を基本軸に、パシフィコ横浜前の水域を利用した各種デモンストレーションや中古艇の展示会場等も実施し、広がりのあるボートショー(マリンショー)が実現した。	関西地区のボートショーとしては初の取り組みとして、フローティング会場の新西宮ヨットハーバーに加え、より新規の一般層を呼び込むため、新たに屋内展示会場として神戸市の神戸国際展示場を使用し、神戸国際ボートショーとして2会場で開催した。神戸市の開港120年イベントとして広報面での協力をもらったが、入場者数は13,391人にとどまった。新企画としてPWCワールドを神戸会場の中に取り込み、若者層の動員を図った。また、2会場を結ぶシャトル便(ボートとバス)を配備して来場者の利便を図り、特にシャトルボートはボートショーの魅力の一つとして人気を博した。

	【2008年(平成20年)】	
	ジャパンインターナショナル ボートショー 2008 イン横浜 (第47回)	関西国際ボートショー 2008 (第4回)
会 期	2008年3月6日(木)～9日(日)	2008年3月21日(金)～23日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 A～D全ホールと隣接フローティング会場、日本丸メモリアルパーク、臨港パークとその周辺	アジア太平洋トレードセンター、新西宮ヨットハーバー
入場者数	47,103人	18,785人
出展会社数	207社	93社
出展物数	ボート157隻/ヨット20隻/PWC33隻/エンジン82基	出展艇109隻
概 要	前年同様のパシフィコ横浜の屋内ホール及び、隣接の海上を使った大型艇フローティング展示、中古艇フェアに加えて、新たに日本丸メモリアルパークを使っのプレジャーボートの体験乗船を実施するなど、総合マリンショーとして開催。臨港パークの海面では、マキシボート等のドリームボートの一般公開や、海上保安庁のヘリを使った海難救助デモ、PWC世界チャンピオンのフリースタイル演技などを行った。なお、これからマリンレジャーに関心を持ってもらうべき一般層や親子でのファミリー層を来場者の基本軸として動員策を展開し、マリンの雰囲気があふれるステージイベントや「ミス日本 海の日」等のエスコートで、盛り沢山のメニューによる、広がりのある楽しさを実現させた。	年度初めに2会場で開催した神戸国際ボートショー2007は、神戸市の屋内ホールを採用したため、会場のアクセスと魅力づくりが十分できなかった。このことを踏まえ、大阪の都心から地下鉄で20分のエリアで、十分な駐車場もあり、海面の利用が可能な、大阪南港のアジア太平洋トレードセンター(ATC)を、屋内・屋外展示、海上イベントのできる会場として採用し、新西宮ヨットハーバーと2会場で開催した。その結果、天候にも恵まれ、前年の140%の来場者を迎えることができた。

【2009年(平成21年)】		
	ジャパンインターナショナル ボートショー 2009 イン横浜 (第48回)	関西国際ボートショー 2009 (第5回) ※中止前の準備状況
会 期	2009年3月12日(木)～15日(日)	2009年3月27日(金)～29日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 A～D全ホールと隣接フローティング会場、臨港パークとその周辺	アジア太平洋トレードセンター
入場者数	40,533人	目標 20,000人
出展会社数	約 210社	(12月末時点) 32社
出展物数	ボート 135隻/ヨット 34隻/PWC34隻	(12月末時点) 出展予定艇数 48隻
概 要	<p>横浜開港 150 周年を迎えた横浜市との連携を図りながら、パシフィコ横浜の屋内ホール及び、隣接の海上を使った大型艇のフローティング展示、中古艇フェアに加えて、臨港パーク前のマリンスポーツのデモンストレーションをより充実させて、総合マリンショーとして開催した。来場者のターゲットを、これからマリンレジャーに関心を持ってもらうべき一般層や親子でのファミリー層とし、動員策を展開。マリンの雰囲気があふれるステージイベントや安全セミナー、「ミス日本 海の日」のエスコート等で、盛り沢山のメニューによる広がりのある楽しさを実現させた。出展者には、不況下にもかかわらず、予想以上に好評であった。</p>	<p>関西国際ボートショー 2009 は、大阪都心から地下鉄で 20 分のエリア、余裕のある駐車場、海面の利用が可能な、大阪南港の ATC を単独会場とし、開催準備を進めていた。しかし、2008 年 9 月以降のリーマンショックによる世界的な影響を受け、例年出展していた小規模出展者のみならず、主要会員からの出展取り止めなどもあり、ボートショーの形態として来場者の期待に添えないと判断し、12 月末に中止とした。なお、出展が決まっていた出展者や後援先には中止の説明に伺い、理解をいただいた。</p>

ジャパンインターナショナルボートショー 2007 イン横浜



ジャパンインターナショナルボートショー 2008 イン横浜



ジャパンインターナショナルボートショー 2009 イン横浜



【2010年(平成22年)】	
ジャパンインターナショナルボートショー 2010 (第49回)	
会 期	2010年3月4日(木)～7日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 B～Dホールと隣接フローティング会場、臨港パークとその周辺
入場者数	37,880人
出展会社数	170社
出展物数	ボート105隻/ヨット20隻/PWC25隻/
概 要	横浜で4回目となる2010年のボートショーは、横浜市との連携を図りながら、パシフィコ横浜の屋内ホールでのプレジャーボート、ヨットの展示及び、隣接の海上を使った大型艇のフローティング展示、中古艇フェアに加えて、臨海パーク前のマリンスポーツデモンストレーションを実施した。開催4日間のうち3日間は生憎の天候となり、入場者数は昨年を2,653名下回る37,880名にとどまった。屋内会場では、マリンレジャー関心層にアピールできるイベントとして、間寛平氏による「アースマラソン」使用ヨットの展示などを実施。この集客効果で賑わいをみせた。

【2011年(平成23年)】	
ジャパンインターナショナルボートショー 2011 (第50回)	
会 期	2011年3月3日(木)～6日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 B～Dホールと隣接フローティング会場、臨港パークとその周辺
入場者数	43,240人
出展会社数	163社
出展物数	ボート125隻/ヨット21隻/PWC52隻
概 要	横浜での5回目となるボートショーは、開催50回記念として、さまざまなイベントプログラムを実施。中学生以下を対象に行った「みらいの海の乗り物絵画とアイデアコンテスト」には655作品が寄せられ、ボートショー公式ポスターの作家でもあるマリンイラストレーターのTadami氏を中心に審査し、「ボートショー50回記念賞」等を選考した。また、アースマラソンを完結したばかりの間寛平さんが、3日の開会式式典とトークショーに登場。4日には「若大将」こと加山雄三氏が、友情出演としてTadami氏とともにステージに登場し、平日にもかかわらず熱気に包まれた。

ジャパンインターナショナルボートショー 2010



ジャパンインターナショナルボートショー 2011



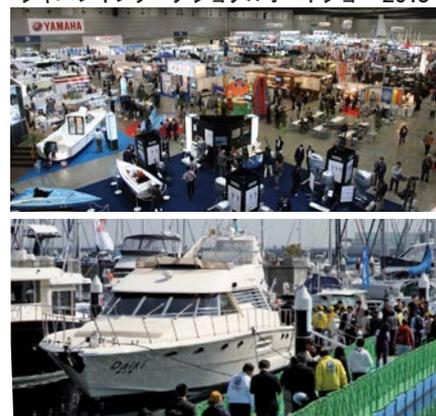
【2012年(平成24年)】	
ジャパンインターナショナルボートショー 2012 (第51回)	
会 期	2012年3月1日(木)～6日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 B～Dホール、横浜ベイサイドマリーナ、臨港パークとその周辺
2会場間のアクセス	無料シャトルバス運行
入場者数	35,060人
出展会社数	172社
出展物数	ボート、ヨット、PWC等164隻
概 要	パシフィコ横浜と横浜ベイサイドマリーナで、初の本格2会場開催のボートショーとして実施し、両会場をつなぐアクセスとして無料のシャトルバスを運行した。パシフィコ横浜会場では、新設のダイビングコーナーやスタンドアップパドルボードコーナーを導入。横浜ベイサイドマリーナ会場での体験乗船プログラムと併せ、総合マリンレジャーショーとしての魅力を拡充させた。また、「東北元気プログラム」として、「届けよう！ 応援の海風」のキャッチフレーズのもと、東北応援大使になっていただいた“さかなクン”（東京海洋大学客員准教授）をはじめとする海好き著名人44人による公式ホームページでのメッセージ発信、マリンチャリティーオークション、東北3県の物産・飲食を集めた「東北元気コーナー」など、さまざまなプログラムを実施した。

【2013年(平成25年)】	
ジャパンインターナショナルボートショー 2013 (第52回)	
会 期	2013年3月7日(木)～10日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 B～Dホール、横浜ベイサイドマリーナ
2会場間のアクセス	無料シャトルバス運行
入場者数	38,140人
出展会社数	165社
出展物数	ボート166隻／ヨット22隻／PWC22隻／エンジン48基
概 要	前年に引き続き、パシフィコ横浜と横浜ベイサイドマリーナの2会場で、2013年ニューモデルなど多種多様なボート、ヨット、PWC等の展示を中心に、ボート免許やマリーナなど、マリンレジャーの最新情報を集約した、総合マリンレジャーショーとして開催。パシフィコ横浜では、“あなたが海でしたいこと”を応援・実現するプログラム「海コト」キャンペーンを実施。海で体験してみたいことを実現できる権利が得られる「海コト・ドリーム」には、100名を越える応募があった。横浜ベイサイドマリーナ会場では、大型艇のフローティング展示をはじめ、体験プログラムを実施。隣接する「三井アウトレットパーク 横浜ベイサイド」のご協力で、買い物客やレストラン利用者を対象とした「ミニクルーズ」を実施し、164名にマリンレジャーの楽しさを満喫してもらった。

ジャパンインターナショナルボートショー 2012



ジャパンインターナショナルボートショー 2013



【2014年(平成26年)】	
ジャパンインターナショナルボートショー 2014 (第53回)	
会 期	2014年3月6日(木)～9日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 B～Dホール、横浜ベイサイドマリーナ
2会場間のアクセス	シャトルバス(無料)、シャトルボート(有料)を運行
入場者数	35,439人
出展会社数	175社
出展物数	ボート141隻/ヨット26隻/PWC35隻/エンジン63基
概 要	“365日、海がアソビバ”をテーマに、2014年ニューモデルをはじめ、ボート免許やマリーナなどの最新情報を集約した、総合マリンレジャーショーとして開催。2会場をつなぐアクセスは、シャトルバス(無料)の運行に加え、シャトルボート(有料)を運航し、会場移動間も海を満喫してもらえるよう配慮した。パシフィコ横浜会場では、新たに「プレミアム・マリン・ライフスタイルゾーン」や「PWCワールド」「五輪セーリング競技応援プロジェクト」など、マリンに関するテーマゾーンを設定して、各種マリンレジャーの楽しさをアピールした。横浜ベイサイドマリーナ会場では、30フィート以上の大型艇44隻をフローティング展示。体験プログラムも、大型ボートでの「東京湾航海講座」、ヨットでの「体験セーリング」、ボート免許教習艇を用いた「体験! ボートライセンス」を実施し、合計168名が参加した。

【2015年(平成27年)】	
ジャパンインターナショナルボートショー 2015 (第54回)	
会 期	2015年3月5日(木)～8日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 B～Dホール、横浜ベイサイドマリーナ
2会場間のアクセス	シャトルバス(無料)、シャトルボート(有料)を運行
入場者数	43,100人
出展会社数	185社
出展物数	ボート126隻/ヨット23隻/PWC27隻/エンジン59基
概 要	入場者数40,000人を目標に取り組んだところ、あいにくの天候となり、来場者数の出足が懸念されたが、4日間合計で前年を大幅に上回る43,100人が来場。パシフィコ横浜会場では、新設の「社会に役立つボートコーナー」「シーサイドカフェ」「ボートショー公式グッズ販売」といった取り組みも来場者の注目を集めていた。横浜ベイサイドマリーナ会場では、30フィート以上の大型艇45隻をフローティング展示。悪天候ではあったものの、体験プログラムでは、熱心なマリンファンがひとときの海上の時間を楽しんでいた。

ジャパンインターナショナルボートショー 2014



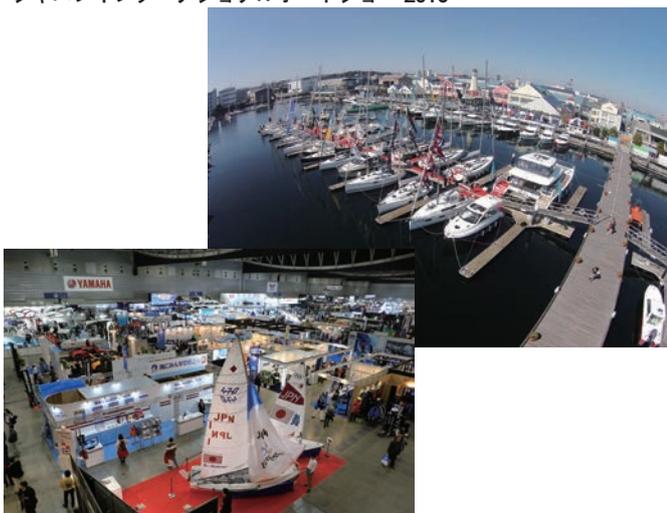
ジャパンインターナショナルボートショー 2015



【2016年(平成28年)】	
ジャパンインターナショナルボートショー 2016 (第55回)	
会 期	2016年3月3日(木)～6日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 B～Dホール、横浜ベイサイドマリーナ
2会場間のアクセス	シャトルバス(無料)、シャトルボート(有料)を運行
入場者数	49,515人
出展会社数	193社
出展物数	ボート160隻/ヨット26隻/PWC47隻/エンジン55基
概 要	女性に焦点を当て、「海」はじめての第一歩を応援!」をキーワードに、さまざまな企画を実施。パシフィコ横浜会場では、経済評論家で自らマリンレジャーを楽しんでいる勝間和代さん、日本初の広告専門誌『宣伝会議』編集室長の田中理沙さん、シドニー五輪競泳メダリストの源 純夏さん、プロサーファーの大村奈央さんのトークショーや、女性アングラーのセミナーなど、多彩なプログラムでマリンレジャーの楽しさをアピールした。また、横浜ベイサイドマリーナ会場では、女性限定の体験プログラム「春らんまん。マリーナ・ピクニッククルーズ」を実施。参加者はさまざまなボートがずらりと並ぶ壮観な眺めと、実際にボートを操船する初めての体験を楽しんでいた。

【2017年(平成29年)】	
ジャパンインターナショナルボートショー 2017 (第56回)	
会 期	2017年3月2日(木)～5日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 A～D全ホール、横浜ベイサイドマリーナ
2会場間のアクセス	シャトルバス(無料)、シャトルボート(有料)を運行
入場者数	52,252人
出展会社数	218社
出展物数	ボート144隻/ヨット21隻/PWC48隻/エンジン92基
概 要	出展社増加に伴い、7年ぶりにパシフィコ横浜全館を使用しての開催となった。「海・心満たされる時間…」を新テーマに、218社が出展。3月3日(金)を「プレミアム・ナイト」として、パシフィコ横浜会場は夜8時まで開場する新たな企画を実施。横浜周辺に在住または仕事帰りの方々の来場促進に取り組んだ効果もあり、52,000人を越える入場者数となった。また、横浜ベイサイドマリーナ会場に隣接する「三井アウトレットパークアウトレットパーク 横浜ベイサイド」には、ボートショーに合わせて「マリンライフスタイルコレクション」を開催していただき、買い物に訪れた方々に、マリンレジャーを身近なものとして実感してもらうことができた。

ジャパンインターナショナルボートショー 2016



ジャパンインターナショナルボートショー 2017



【2018年(平成30年)】	
ジャパンインターナショナルボートショー 2018 (第57回)	
会 期	2018年3月8日(木)～11日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 A～D全ホール、横浜ベイサイドマリーナ
2会場間のアクセス	シャトルバス(無料)、シャトルボート(有料)を運行
入場者数	53,420人
出展会社数	222社
出展物数	ボート148隻/ヨット29隻/PWC48隻/エンジン59基
概 要	新たな企画として、ボートショーでしか聞けない16講座をそろえた「海ゼミ」を開始。初心者からベテランまで、事前予約を含めた664人が受講した。また、メインステージでは、19、20歳を対象に全国約50種のマリンアクティビティーが無料で楽しめる「海マジ」を発表。さらに、STU48代表メンバーが、国土交通省が推進する「C to Sea プロジェクト」を紹介した。横浜ベイサイドマリーナ会場では、中大型艇52隻のフローティング展示や、体験操船をはじめとする四つの体験プログラムを実施し、約300人が参加した。

【2019年(平成31年)】	
ジャパンインターナショナルボートショー 2019 (第58回)	
会 期	2019年3月7日(木)～10日(日)
開催場所	パシフィコ横浜 A～D全ホール、横浜ベイサイドマリーナ
2会場間のアクセス	シャトルバス(無料)、シャトルボート(有料)を運行
入場者数	55,243人
出展会社数	230社
出展物数	ボート179隻/ヨット26隻/PWC57隻/エンジン49基
概 要	パシフィコ横浜会場では、新企画として、子供連れの家族が参加できる「マリンキッズビレッジ」や「親子でマリンコーディネート・コンテスト」、海の駅が推薦する味自慢のパン屋さんを集めた「海辺のベーカリー」、夜7時に出航して横浜の夜景を楽しむ「ナイトクルーズ」を実施。横浜ベイサイドマリーナ会場では、10億円のスーパーヨットを見学できる特別企画や、ボート免許を持っていない方も操船体験できる「船長にチャレンジ!」などのプログラムを展開した。また、メインステージでは、3月7日の開会式に続いて行った「JMIA マリンアンバサダー」任命式で、当会の柳 弘之会長から、初代マリンアンバサダーとなったラグビー選手・五郎丸 歩さんに任命書が渡された。

ジャパンインターナショナルボートショー 2018



	【2020年(令和2年)】
	ジャパンインターナショナルボートショー 2020 (第59回)
会 期	中止
開催場所	
2会場間のアクセス	
入場者数	
出展会社数	240社(2020年2月19日時点)
出展物数	ボート200隻/ヨット30隻/PWC30隻/エンジン60基(2020年2月19日時点)
概 要	「海・ここが夢の入り口……」を新テーマに、来場者それぞれの“夢”の入り口として、パシフィコ横浜A～D全ホール、ぶかり桟橋、横浜ベイサイドマリーナの3会場で、2020年3月5日(木)～8日(日)に開催を予定していたが、中国・武漢市で発生した新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が急速に拡大する中で、来場者および出展関係者の健康や安全面を第一に考えた結果、2月19日に開催中止を決定した。5万人を越える多数の来場者の方々に安心して楽しんでいただくイベントを目指して準備を進めていたが、感染のリスクを排除しきれない恐れがあるため、苦渋の選択をするに至った。

ジャパンインターナショナルボートショー 2019



ジャパンインターナショナルボートショー 公式サイト (2012-2017)

JAPAN BOATSHOW 2012
INTERNATIONAL BOAT SHOW 2012

2012.3/1 木、2 金、3 土、4 日
パシフィック横浜 (屋内展示) / 横浜ベイサイドマリーナ (屋外展示)

「やっぱり海が好き。」

このサイトはボートショー2012の基本情報を掲載しています。ボートショーで開催する各種イベントについては、特設ページにて最新情報をお届けいたします。

イベント特設サイトの最新情報

- 2016年04月04日 17:06 ノミエリンの感動が伝わるCGアニメーションを公開中！
- 2016年04月04日 17:03 ノミエリンの感動が伝わるCGアニメーションを公開中！
- 2016年04月04日 17:01 男女ともに好評なCGアニメーションを公開中！

JAPAN BOATSHOW 2013

2013.3.7 木、8 金、9 土、10 日

「海コト宣言」

「満員御礼」

公式フェイスブックページでつづる最新情報特設ページ！

News & Informations

- 2013.03.11 ジャパンインターナショナルボートショー2013は終了いたしました。
- 2013.03.09 【体験乗船プログラム】の開催可否について
- 2013.03.08 【体験乗船プログラム】の開催可否について

JAPAN BOATSHOW 2014
INTERNATIONAL BOAT SHOW 2014

2014.3.6 木、7 金、8 土、9 日

365日、海がアソビバ!

今なら、当日券1,200円の入場料が1,000円に!

特別引換券 200円OFF!

主要出展社: Kawasaki, SUZUKI MARINE, TOHATSU, TOYOTA MARINE, NISSAN MARINE, FURUKO, HONDA MARINE, VOLVO PENTA, YAMAHA, YANMAR

体験乗船プログラム
シャトルボート登場!!
クルーイングを申し込めば会場を移動

JAPAN BOATSHOW 2015
INTERNATIONAL BOAT SHOW 2015

2015.3.5 木、6 金、7 土、8 日

365日、海がアソビバ!

今なら、当日券1,200円の入場料が1,000円に!

特別引換券 200円OFF!

主要出展社: TOYOTA MARINE, TOHATSU, SUZUKI MARINE, Kawasaki, YANMAR, YAMAHA, VOLVO PENTA, HONDA MARINE, FURUKO

体験乗船プログラム
シャトルボート登場!!

JAPAN BOATSHOW 2016
INTERNATIONAL BOAT SHOW 2016

2016.3.3 木、4 金、5 土、6 日

今なら、当日券1,200円の入場料が1,000円に!

特別引換券 200円OFF!

主要出展社: TOYOTA MARINE, TOHATSU, SUZUKI MARINE, Kawasaki, YANMAR, YAMAHA, VOLVO PENTA, HONDA MARINE, FURUKO

イベント情報
女性限定イベント
女性限定の体験乗船プログラム
特別プログラム

JAPAN BOATSHOW 2017
INTERNATIONAL BOAT SHOW 2017

2017.3.2 木、3 金、4 土、5 日

今なら、当日券1,200円の入場料が1,000円に!

特別引換券 200円OFF!

主要出展社: Kawasaki, SUZUKI MARINE, TOHATSU, TOYOTA MARINE, FURUKO, HONDA MARINE, VOLVO PENTA, YAMAHA, YANMAR, Yamanaka

体験乗船プログラム
シャトルボート登場!!

ジャパンインターナショナルボートショー 公式サイト (2018-2020)

2000年代のボートショー関連アイテム

ボートショーノベルティグッズ

ガイドブック